

## 忘れない

何もしなければ、災害の記憶はしだいに失われていきます。災害の教訓や記録を刻した石碑は、人々に災害のことを思い起こさせ、災害への対応を後世に伝える役割を果たしています。香川県さぬき市と高知県室戸市の例をご紹介します。

### ■津田の豪雨災害（香川県さぬき市）

昭和51年（1976）9月、台風17号が九州南西海上に停滞し、津田町（現さぬき市）では8日～13日の降雨量が983ミリに達しました。津田町の年平均降雨量は1,200～1,300ミリ前後ですので、それに匹敵するほどの大雨が数日で降ったこととなります。北山地区の山崩れなどにより、津田町の被害は死者8人、重軽傷者4人、全壊15戸、半壊14戸、床上浸水309戸などに及びました。町では、災害の教訓を生かし二度と災禍が起こらないようにと願い、災害から3年後に災害記録集を作成し、「忘れじの標」を建立しました。<参考資料：津田町防災会議編「昭和51年9月激災台風17号集中豪雨忘れじの標」（1979年）及び津田町史編集委員会編「再訂津田町史」（1986年）>



### ■菜生海岸の高波災害（高知県室戸市）

平成16年（2004）10月20日、台風23号により、室戸市室戸岬高浜地区の菜生（なばえ）海岸で高波が発生し、防潮堤が高さ1.5m、長さ30mにわたり損壊しました。損壊した防潮堤のコンクリート塊の一部は北側の集合住宅を直撃し、防潮堤の損壊箇所からは大量の海水・流木が住宅地に流れ込み、死者3人、重軽傷者4人、住宅の全壊5棟、半壊3棟、一部破損4棟、床上浸水6棟などの被害をもたらしました。被災跡地に建てられた碑には、「災害の恐ろしさを忘れない日 平成16年10月20日」と刻まれています。<参考資料：国土交通省高知河川国道事務所高知海岸出張所編「高知海岸」及び土木学会四国支部四国地域緊急災害調査委員会編「四国地域豪雨・高潮調査団調査報告書」（2005年）>

